

平成30年8月27日
文教委員会資料課
指導

各種学力調査の結果について

○平成30年度「品川区学力定着度調査」の結果について

○平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

平成30年度「品川区学力定着度調査」の結果について

1 調査日時

平成30年4月19日（木）

2 調査対象（品川区公立学校全校）

小学校・義務教育学校 第2～6年
中学校・義務教育学校 第7～9年

3 調査内容

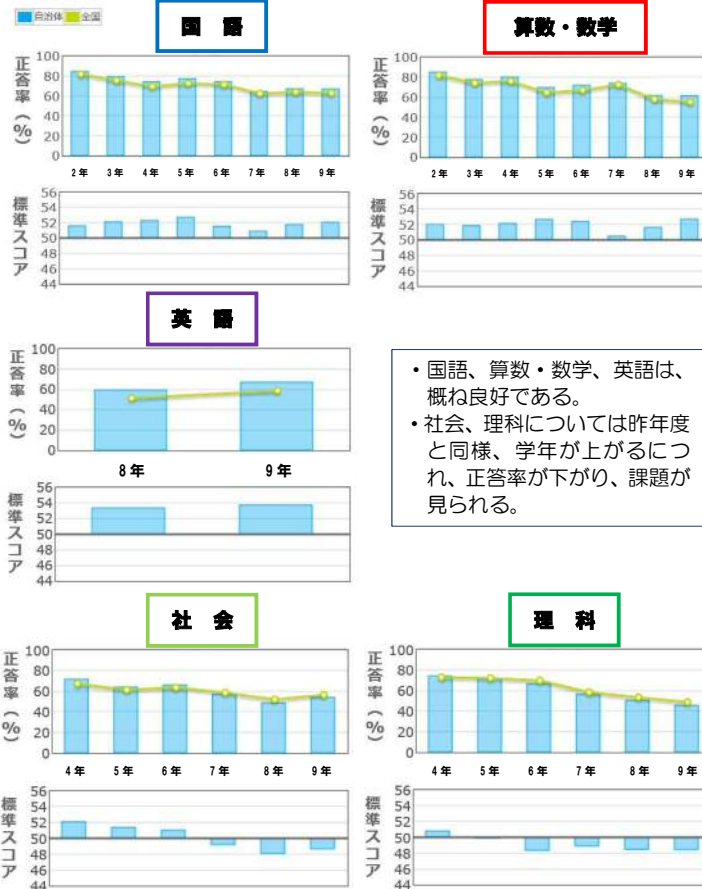
(1) 教科に関する調査

- 学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を図る問題で構成
 - 前年度に学んだ内容の定着度を、新年度の4月に調査
- <第2、3学年>
国語、算数
- <第4、5、6学年>
国語、社会、算数、理科
- <第7、8、9学年>
国語、社会、数学、理科、英語

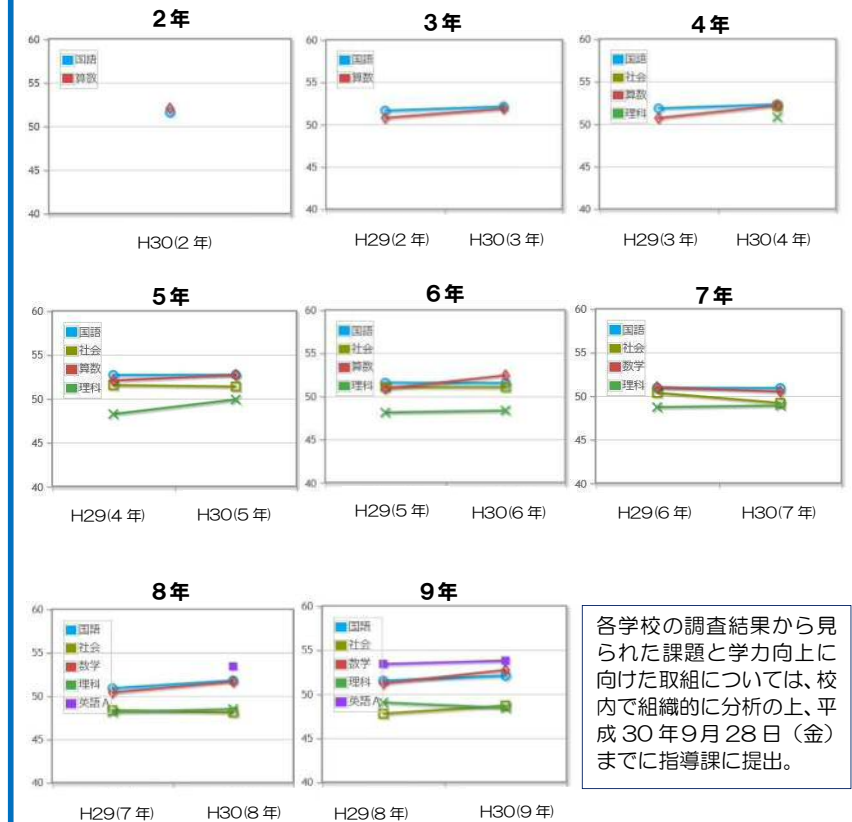
(2) 総合質問紙調査

- <第2学年～第9学年>
- 自己認識、社会性、学級環境、生活・学習習慣に関する意識について、学力向上を目的とする学級経営や児童・生徒指導の指針づくりに役立つ包括的な項目の構成

教科別の正答率および標準スコア

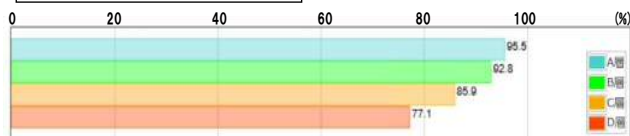


同一集団の経年比較（標準スコア）

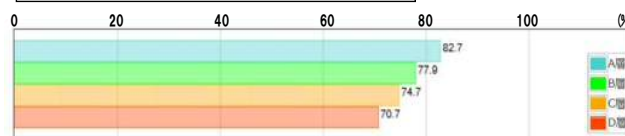


総合質問紙調査と学力との関係（9年生）

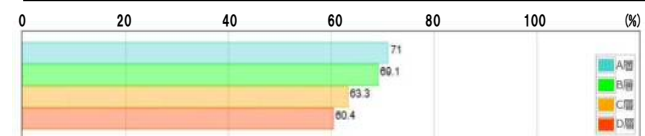
朝食を毎日食べていますか。



毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。



お祭りやボランティア活動など、地域の行事に参加している。



※ 学力4層（A～D層）別に見た、各質問の肯定的な回答の割合を表している
※ 学力4層とは、児童・生徒の正答率分布を25%刻みで4つの層に分けたもの

平成30年度「品川区学力定着度調査」課題となる小問

国語

「言語事項」、「与えられた条件で作文すること」に課題がある。

学年	小問	目標値(%)	正答率(%) (区)	正答率(%) (全国)
2	漢字の書き(虫)	90.0	89.1	90.7
3	順序に沿って文章の構成を考える	40.0	27.1	28.8
4	ローマ字のつづり(tokkyū)	55.0	41.1	54.4
5	漢字の書き(参加)	70.0	70.2	72.9
6	漢字の書き(額)	55.0	53.1	53.3
7	漢字の書き(温暖)	70.0	56.2	72.9
8	歴史的仮名遣い(いふ→いう)	70.0	62.6	68.8
9	敬語の理解(「見る」の尊敬語)	40.0	35.5	34.5

算数 数学

おおむね良好であるが、「小数の入った計算」、「文章題からの立式」、「グラフの作図」などに課題がある。

学年	小問	目標値(%)	正答率(%) (区)	正答率(%) (全国)
2	かさ(形の異なる容器の比較)	85.0	76.2	72.6
3	もとの大きさの1/4の大きさの理解	75.0	62.0	64.2
4	整数-小数第一位の計算	80.0	75.2	71.8
5	面積を2等分する直線	30.0	15.1	4.5
6	長方形から正方形を得る(最大公倍数を利用)	30.0	25.5	17.0
7	1m ² あたりの人数を求める	40.0	35.3	35.1
8	比例の式からグラフをかく	55.0	49.6	54.3
9	文章題から連立方程式を立式する	30.0	25.3	20.5

社会

「資料の読み取り」、「社会的事象についての知識・理解」の定着に課題がある。

学年	小問	目標値(%)	正答率(%) (区)	正答率(%) (全国)
4	工場の生産物の出荷に関する資料の読み取り	60.0	43.5	50.7
5	火災発生時の備えに関する資料の読み取り	65.0	52.2	59.1
6	貿易と運輸に関する複数の資料の読み取り	45.0	37.7	42.8
7	富国強兵についての理解	40.0	22.2	27.9
8	世界の気候帯についての理解	40.0	20.5	25.5
9	殖産興業政策についての理解	40.0	13.9	16.6

理科

「自然事象についての知識・理解」に課題があり、「グラフの作図」など「観察・実験の技能」にも課題がある。

学年	小問	目標値(%)	正答率(%) (区)	正答率(%) (全国)
4	昆虫のからだのつくり	55.0	51.7	56.1
5	空気中の水蒸気を取り出す方法	30.0	17.4	14.9
6	植物の発芽と成長(適切な対照実験)	45.0	28.8	47.8
7	集気びんにろうそくを入れたときの様子	50.0	25.0	30.8
8	物質の状態変化(蒸留の理解)	55.0	31.6	39.6
9	Mgと化合した気体の質量(グラフの作図)	40.0	8.3	16.1

英語

おおむね良好であるが、「リスニング」や「長文の読み取り」、「英作文」に課題がある。

学年	小問	目標値%	正答率(%) (区)	正答率(%) (全国)
8	英文の要点を聞き取る(リスニング)	55.0	46.7	44.0
9	ブログの内容を把握する(長文の読み取り)	50.0	47.6	47.9

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

平成30年8月27日
指 導 課

1 調査日時

平成30年4月17日(火)

2 調査対象

小学校(義務教育学校前期課程を含む) 第6学年
中学校(義務教育学校後期課程を含む) 第9学年

3 調査児童・生徒数()内は本区

第6学年 1,030,031人(2,309人)
第9学年 967,196人(1,523人)

4 調査内容

(1) 教科に関する調査

○主として「知識」に関する問題

〔国語A、算数・数学A〕

○主として「活用」に関する問題

〔国語B、算数・数学B〕

○「知識」と「活用」を一体的に出題

〔理科〕

(2) 生活習慣や学習環境に関する調査

○児童・生徒質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

○学校質問紙調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備状況に関する調査

【参考】

※数字は平均正答率、丸数字は都道府県の順位を示す。

6年生

国語A	国語B	算数A	算数B	理科
77 秋田①	61 秋田①	70 品川	59 石川①	66 秋田①
	石川	68 石川①	品川	石川
76 石川②	59 広島③	67 秋田②	57 秋田②	64 富山③
福井	品川	東京		福井
75 青森④	58 富山④	66 新潟④	56 福井③	63 茨城⑤
	香川	富山		広島
	品川	福井		大分
		沖縄		品川
74 東京⑤	57 東京⑥		55 東京④	62 東京⑧

9年生

国語A	国語B	数学A	数学B	理科
80 秋田①	66 秋田①	72 福井①	53 福井①	71 石川①
	福井			福井
79 石川②	65 石川②	71 石川②	52 石川②	70 富山③
福井				
78 富山④	64 福井③	70 富山③	51 富山③	67 品川⑬
静岡	品川	品川	品川	品川
品川				
77 東京⑥	63 東京④	67 東京⑩	49 東京⑤	65 東京⑯

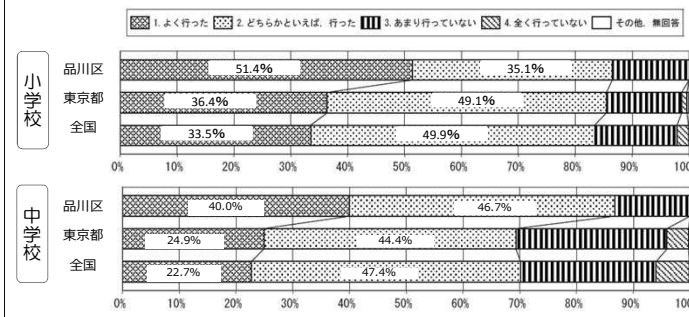
5 教科に関する調査の結果の概要(平均正答率)

小学校	品川区	東京都	全国	中学校	品川区	東京都	全国
国語A	76%	74%	71%	国語A	78%	77%	76%
国語B	58%	57%	55%	国語B	64%	63%	61%
算数A	70%	67%	64%	数学A	70%	67%	66%
算数B	59%	55%	52%	数学B	51%	49%	47%
理科	63%	62%	60%	理科	67%	65%	66%

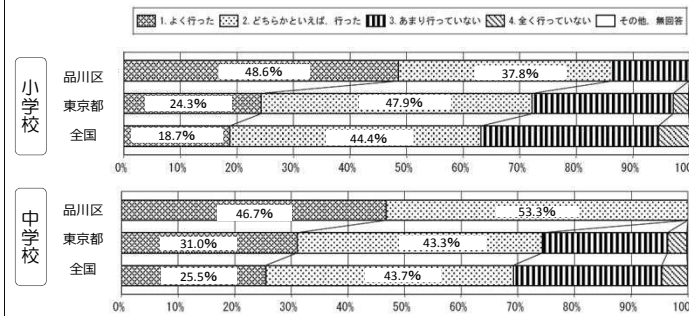
○ 全ての調査結果において、全国および東京都の平均正答率を上回っている。

6 学校質問紙調査の結果概要

○地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか



○近隣等の(小)中学校・(中)小学校と、教科の教育課程の接続や教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか



○「授業における地域人材の活用」や「学校段階間の円滑な接続に向けた取組」について肯定的な回答をした学校の割合は、国や都を大きく上回っている。

7 児童・生徒質問紙調査の結果概要

○家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。(肯定的な回答の合計)



○地域や社会で起こっている問題や出来事に 관심이ありますか。(肯定的な回答の合計)



○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。(肯定的な回答の合計)



○「自ら計画を立てて勉強している」、「地域や社会の出来事等に関心がある」、「話し合いを通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている」と肯定的な回答をした児童・生徒ほど正答率が高い傾向が見られた。

8 考察

<小学校>

予習・復習等、計画的な家庭学習の継続が、良好な調査結果に結びついたと言える。理科の観察・実験の技能の定着に課題が見られた。

<中学校>

調査結果は概ね良好であるが、昨年度と同様、国語では古典や書写の基礎的事項の定着に課題が見られた。また、理科において、結果の原因を推察し、自分の考えを記述する問題に課題が見られた。

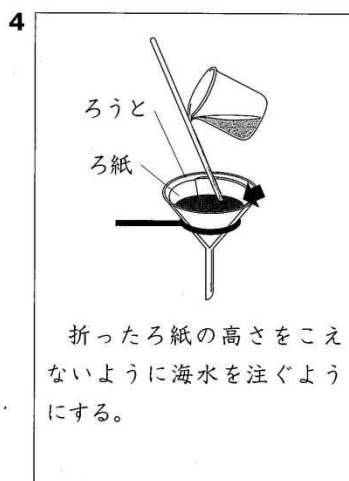
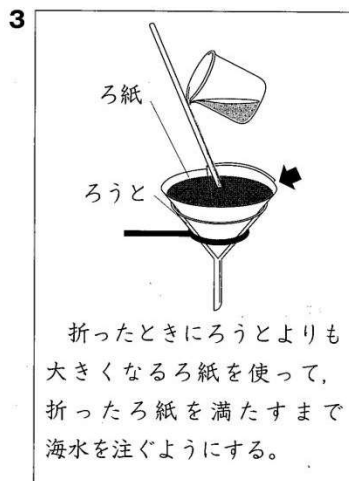
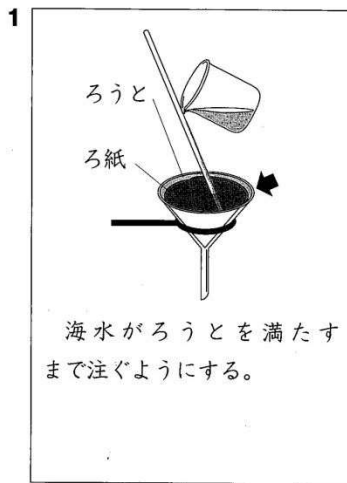
<共通>

全ての学校で、プロジェクターや電子黒板等のICTを活用した授業を1クラス当たり週1回以上行っている。引き続き、児童・生徒の興味・関心を高めるとともに、児童・生徒の実態や特性に応じた授業改善を図っていくことが必要である。

平成30年度「全国学力・学習状況調査」
において特に課題の見られた問題

4

(1) まもるさんの気づきをもとに、正しく操作し直しているものはどれですか。下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。



設問の趣旨	区分	正答率	解答類型				
			1	2	3	○4	無解答
ろ過の適切な操作方法を身に付けている	品川区	69.6	3.2	19.8	7.0	69.6	0.4
	東京都	72.6	3.2	17.1	6.3	72.6	0.7
	全国	71.1	3.6	18.7	6.2	71.1	0.5

学習指導要領における区分・内容

【第5学年】 A 物質・エネルギー

(1) 物を水に溶かし、水の温度や量による溶け方の違いを調べ、物の溶け方の規則について考えをもつことができるようにする。

イ 物が水に溶ける量は水の温度や量、溶ける物によって違うこと。また、この性質を利用して、溶けている物を取り出すことができること。

観察・実験の技能の定着が不十分である。

五 書写の時間に、行書で「野花」という文字を書いた松田さんは、【作品】をよりよくするためにグループで助言し合っています。この【作品】への助言として最も適切なものを、あとの1から4までのの中から一つ選びなさい。

【作品】



- 1 ㊦の部分は筆脈を意識して、次の画へのつながりが分かるように書きましょう。
- 2 ㊧の部分は文字の全体の大きさに気を付けて、偏へんよりも小さく書きましょう。
- 3 ㊨の部分は点画を省略せずに、楷書かいしょで書くときの筆順どおりに横画を最初に書きましょう。
- 4 ㊩の部分は左下に向けて払い、次の字につながるよう書きましょう。

学習指導要領における領域・内容

【第1学年】

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(2)
イ 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。

行書では筆順が変わる場合があるなど、基礎的な書き方の理解が不十分である。

設問の趣旨	区分	正答率	解答類型				
			○1	2	3	4	無解答
行書の基礎的な書き方を理解して書く	品川区	52.2	52.2	18.5	17.3	10.8	1.3
	東京都	56.3	56.3	17.6	14.7	9.6	1.8
	全国	54.4	54.4	18.3	15.4	10.7	1.2

六次は、中国の『韓非子』という本にある話【A】と、その現代語訳【B】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【A】

楚人に、盾と矛とをひさぐ者あり。これをほめていはく、「わが盾の堅きこと、よくとほすものなし。」と。またその矛をほめていはく、「わが矛の利きこと、物においてとほさざるなし。」と。ある人いはく、「子の矛をもつて、子の盾をとほさばいかん。」と。その人、こたふることあたはざりき。

（竹内照夫「新釈漢文大系 第12巻 韓非子（下）」による。）

2 〰〰〰線部「とほさざるなし」を現代仮名遣いに直し、全てひらがなで書きなさい。

学習指導要領における領域・内容

【第2学年】

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（1）ア

(ア) 文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。

歴史的仮名遣いに関する基礎的な知識が不十分である。
また、問題を読み違い、意味を解答している。

設問の趣旨	区分	正答率	解答類型			
			1	2	99	無解答
歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む	品川区	61.1	61.1	16.3	15.1	7.5
	東京都	52.8	52.8	19.8	18.4	9.1
	全国	63.0	63.0	13.2	16.4	7.4

1 「とおさざるなし」と解答しているもの
2 「とほさざるなし」の意味を解答しているもの
99 上記以外の解答

12 1500 m の道のりを歩きます。 x m 歩いたときの残りの道のりを y m とします。このとき、 x と y の関係について、下のアからエまでの中から正しいものを 1 つ選びなさい。

- ア y は x に比例する。
- イ y は x に反比例する。
- ウ y は x の一次関数である。
- エ x と y の関係は、比例、反比例、一次関数のいずれでもない。

設問の趣旨	区分	正答率	解答類型					
			1	2	○3	4	9 9	無解答
一次関数の意味を理解している。	品川区	33.0	12.5	25.9	33.0	27.2	0.0	1.4
	東京都	32.2	13.7	26.1	32.2	26.7	0.0	1.3
	全国	36.4	13.7	24.1	36.4	24.8	0.0	1.0

解答類型		正答
1	ア と解答しているもの (y は x に比例する。)	
2	イ と解答しているもの (y は x に反比例する。)	
3	ウ と解答しているもの (y は x の一次関数である。)	○
4	エ と解答しているもの (x と y の関係は、比例、反比例、一次関数のいずれでもない。)	
9 9	上記以外の解答	

学習指導要領における領域・内容

【第 2 学年】 C 関数

(1) 具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を養う。

ア 事象の中には一次関数としてとらえられえるものがあることを知る。

一次関数の意味の理解が不十分である。

- 5 里奈さんは、バスツアーを利用して旅行することにしました。そこで、S社とT社のパンフレットから、次のような表にまとめました。

里奈さんが作った表

	S社	T社
プラン名	史跡巡りプラン	史跡巡りプラン
通常料金	1人3500円	1人3200円
団体料金	1人2940円	通常料金の10%引き
団体料金の利用可能人数	8人以上	10人以上

- (2) 里奈さんは、T社の史跡巡りプランの場合、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求めました。

里奈さんの計算1

団体料金は、通常料金3200円の10%引きだから、
 $3200 - 3200 \times 0.1 = 3200 - 320 = 2880$
 団体料金2880円の10人分は、
 $2880 \times 10 = 28800$
 通常料金3200円の何人分にあたるかを求めるから、
 $28800 \div 3200 = 9$

里奈さんの計算1から、史跡巡りプランの団体料金の10人分は通常料金の9人分にあたるということがわかります。

里奈さんは、T社の他のプランも調べました。その結果、プランによって通常料金は異なりますが、10人以上で利用すると、どのプランでも団体料金は通常料金の10%引きになることがわかりました。

そこで、通常料金が変わった場合、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかについて調べるために、T社の通常料金を a 円として、次のように計算しました。

里奈さんの計算2

団体料金は、通常料金 a 円の10%引きだから、
 $a - a \times 0.1 = a - 0.1a = 0.9a$
 団体料金 $0.9a$ 円の10人分は、
 $0.9a \times 10 = 9a$
 通常料金 a 円の何人分にあたるかを求めるから、
 $9a \div a = 9$

上の里奈さんの計算2からわかることがあります。下のア、イの中から正しいものを1つ選びなさい。また、それが正しいことの理由を説明しなさい。

ア 通常料金が変われば、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかは変わる。

イ 通常料金が変わっても、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかは変わらない。

設問の趣旨	計算方法を解釈し、数学的な表現を用いて説明することができる。
-------	--------------------------------

区分	正答率	解答類型											
		◎1	○2	○3	◎4	○5	6	7	8	9	10	99	無解答
品川区	10.3	<u>0.2</u>	<u>0.0</u>	<u>9.7</u>	<u>0.4</u>	<u>0.0</u>	12.9	8.1	14.2	15.7	33.4	0.3	5.0
東京都	12.6	<u>0.4</u>	<u>0.0</u>	<u>11.6</u>	<u>0.5</u>	<u>0.0</u>	10.5	6.7	14.7	15.3	33.5	0.2	6.6
全国	10.4	<u>0.3</u>	<u>0.0</u>	<u>9.7</u>	<u>0.3</u>	<u>0.0</u>	10.4	6.7	15.0	15.5	35.1	0.3	6.6

(正答の条件)

イを選択し、次の(a)、(b)のいずれかについて記述しているもの。

(a) 文字 a (通常料金) を使って団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを表した式に、 a が含まれていないこと。

(b) 文字 a (通常料金) を使って団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求めた計算過程で、 a が消去されること。

1	◎	イを選択 (a)について記述しているもの。(結論がなくてもよい。以下同様。)
2	○	イを選択 (a)について、計算結果に着目していることについての記述が十分でなく、 a が含まれていないことについて記述しているもの。
3	○	イを選択 (a)について、計算結果が一定であることを記述しているもの。
4	◎	イを選択 (b)について記述しているもの。
5	○	イを選択 (b)について、計算過程に着目していることについての記述が十分でなく、 a が消去されることについて記述しているもの。
6	イ	イを選択 (a)、(b)についての記述はないが、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかや通常料金に着目して記述しているもの。
7	イ	イを選択 選択肢イに当たる事柄のみを記述しているもの。
8	イ	イを選択 上記以外の解答
9	イ	イを選択 無解答
10		アを選択しているもの。
99		上記以外の解答
0		無解答

学習指導要領における領域・内容

【第2学年】 A 数と式

- (1) 具体的な事象の中に数量の関係を見だし、それを文字を用いて式に表現したり式の意味を読み取ったりする能力を養うとともに、文字を用いた式の四則計算ができるようにする。
 イ 文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明できることを理解すること。

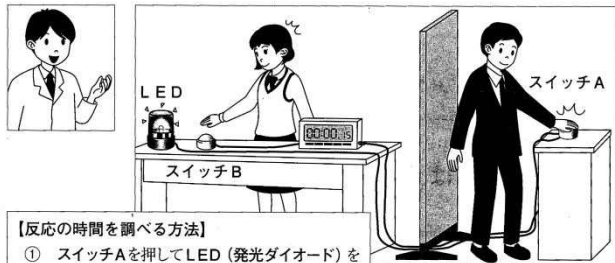
計算過程において文字 a が消去されることから、求める人数分の料金が通常料金 a によらないということが理解できていない。

5 ヒトの刺激と反応について、日常生活と関連する課題を、理科の授業で科学的に探究しました。

(1)と(2)の各問いに答えなさい。

日常生活との関連を考える場面

先生：「反応の時間を測定する装置」で刺激に対する反応の時間を測定したら、約0.2秒でした。



【反応の時間を調べる方法】

- ① スイッチAを押してLED(発光ダイオード)を点灯させる。
- ② LEDの点灯を見たらスイッチBを押す。
- ③ ①から②までの時間が表示される。

先生：ところで、バスの注意書きの「お客様へお願い」を見たことがありますか。なぜ話しかけてはいけないのでしょうか。

生徒：信号を見てブレーキを踏むのが遅れるからだと思います。

先生：なるほど。

でも、信号を見てブレーキを踏むのが遅れることを確かめることはできません。

そこで、運転中の運転士に話しかけてはいけない理由を探究するために、「反応の時間を測定する装置」を使って確かめることができる実験を計画しましょう。



(1) 下線部の反応の経路を下のように示したとき、 に適する語句を書きなさい。

目 → 神経 → 脳・脊髄 → 運動神経 → 筋肉

設問の趣旨	知識	活用
神経系の働きについての知識を身に付けている	○	

区分	正答率	解答類型						
		◎1	◎2	3	4	5	99	無解答
品川区	47.4	46.2	1.2	2.8	12.4	4.5	22.5	10.5
東京都	47.2	45.0	2.2	2.3	15.6	4.6	20.4	10.0
全国	57.2	54.9	2.2	1.9	14.6	4.2	14.9	7.1

1	◎	感覚	と解答しているもの。
2	◎	視	と解答しているもの。
3		運動	と解答しているもの。
4		中枢	と解答しているもの。
5		末しょう	と解答しているもの。
99		上記以外の解答	
0		無解答	

学習指導要領における領域・内容

〔第2分野〕

(3) 動物の生活と生物の変遷

イ 動物の体のつくりと働き

(イ) 刺激と反応

動物が外界の刺激に適切に反応している様子の観察を行い、その仕組みを感覚器官、神経系及び運動期間のつくりと関連付けて捉えること。

感覚器官が受けた刺激が脳に伝わる経路についての知識を身に付けていない。

- 9 健一さんは、乾燥した部屋に鉢植えの植物を置くと湿度が上がって、インフルエンザの予防に効果があると知り、科学的に探究して実験ノートにまとめました。
(1)と(2)の各問いに答えなさい。

実験ノートの一部

2月11日(日) 天気 曇り 気温 22℃

課題
密閉した透明な容器の中に鉢植えの植物を置くと、湿度は上がるのだろうか。

実験

【結果】

AとBの容器の中の温度は22℃で変わらなかった。

時間(時間)	0	1	2	3	4
湿度(%)					
A 植物あり	37	67	87	88	88
B 植物なし	38	39	39	38	38

【考察】

実験の結果から、鉢植えの植物を入れた容器の中の湿度は上がるといえる。

【新たな疑問】

水蒸気が植物から出るだけで、湿度が37%から88%に上がるのだろうか。

- (2) 健一さんは【新たな疑問】をもち、下線部以外の原因を考えました。考えられる原因を1つ書きなさい。

設問の趣旨	知識	活用
植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる		○

区分	正答率	解答類型									
		◎1	◎2	◎3	○4	5	6	7	8	9 9	無解答
品川区	18.5	<u>0.5</u>	<u>1.9</u>	<u>12.0</u>	<u>4.1</u>	6.6	0.7	8.0	5.8	38.6	21.8
東京都	22.3	<u>0.6</u>	<u>2.8</u>	<u>13.6</u>	<u>5.2</u>	6.7	0.9	8.4	5.6	33.7	22.4
全国	19.4	<u>0.7</u>	<u>2.6</u>	<u>12.0</u>	<u>4.1</u>	7.3	1.0	9.5	6.1	35.4	21.4

(正答の条件) 次の(a)、(b)及び(b')又は、(a)及び(b)又は、(a)及び(b')又は、(a)を満たしているもの。
 (a) 土(鉢、皿)の場所について記述している。
 (b) 水蒸気という語句を使って湿度が上がる仕組みを記述している。
 (b') (水の)蒸発という語句を使って湿度が上がる仕組みを記述している。

1	◎	(a)、(b)及び(b')を満たしているもの。 例 土(鉢、皿)から水が蒸発して水蒸気となった。
2	◎	(a)及び(b)を満たしているもの。 例 土(鉢、皿)から水蒸気が出た。
3	◎	(a)及び(b')を満たしているもの。 例 土(鉢、皿)から水が蒸発した。
4	○	(a)を満たしているもの。 例1 土(鉢、皿) 例2 土(鉢、皿)から出た(何が出たか記述していない) 例3 土(鉢、皿)が乾いた。
5		(b)を満たしているもの。 例1 水蒸気 例2 水蒸気が出た(出た場所を記述していない) 例3 植物から水蒸気が出た。 例4 (箱の中の)水蒸気量が増えた。
6		(b')を満たしているもの。 例1 蒸発 例2 水が蒸発(蒸発した場所を記述していない) 例3 植物から水が蒸発
7		(a)、(b)及び(b')を満たさず、「湿度」という語句を使って湿度の変化を記述しているもの。 例 箱の中の湿度が変わった。
8		(a)、(b)及び(b')を満たさず、「温度(気温)」という語句を使って記述しているもの。 例1 温度(気温)が変わらない(一定)。 例2 温度(気温)が上がった(下がった)。
9 9		上記以外の解答
0		無解答

学習指導要領における領域・内容

[第2分野]

(4) 気象とその変化

ア 気象観測

(イ) 気象観測

校庭などで気象観測を行い、観測方法や記録の仕方を身に付けるとともに、その観測記録などに基づいて、気温、湿度、気圧、風向などの変化と天気との関係を見出すこと。

湿度が上がった原因として考えられる要因を見出すことに課題がある。